

12 内視鏡を用いた甲状腺手術 傷が目立たない皮膚切開による手術

甲状腺手術においては首の前方に皮膚切開を行う方法(前頸部切開法)が標準的でした。しかし、前頸部切開法では患者さんによっては、**図1**のように傷が目立つ場合があります。

近年、内視鏡下に甲状腺・副甲状腺を摘出する手術が普及してきております。当科ではVANS (video-assisted neck surgery) 法という、鎖骨の下の胸部皮膚を3cm弱切開(**図2**)し、皮膚を吊り上げる方法を行っております。頸部には約5mmの内視鏡を挿入するための傷しか残りません。胸部の傷は衣服で隠れるので、傷が目立たないのが特徴です。

手術適応は限られておりますので、医師にご相談ください。

【**図1**】



【**図2**】

